

## 第一節 規則・カリキュラム・雑則の変遷

第一巻に続き、明治四十二年から東京音楽学校最後までこの制度の変遷を扱う。

一 規則・カリキュラム、二 諸掛規程、三 諸規程・細則・雑則とする。

### 一 規則・カリキュラム（明治四十二年～昭和二十四年三月）

第一巻では、『東京音楽学校一覽』の「學則」を規則とカリキュラムとに分けて掲載する方法をとった。しかし『東京音楽学校一覽』はその後、項目の分け方や記載方法などに変更がみられ、両者を別項として扱うことが困難であるため、本巻においては両者を一括して扱う。典拠としては、『東京音楽学校一覽』を基本とし、適宜『學事年報』および事務書類などの資料によって補足する。

東京音楽学校の規則は、明治四十二年と大正十二年に大幅改正されている。これらの年度については規則全体をそのまま掲載し、それ以外の年度については変更箇所のみを掲載する。

なお、一には関連資料も多いため、便宜上「明治末」「大正年間」「昭和二年度十年度」「昭和十一年度～昭和十五年度」「昭和十六年度～二十年終戦」「終戦後」に分ける。

### (一) 明治末

明治四十二年～四十三年

明治四十二年四月二十九日、文部省令第十三号により、東京音楽学校規程が大幅に改正された。沿革略には次のような改正事項が記されている。

たとえば、本科の学年制が廃され、修業年限が三箇年以上五箇年以内となり、本科の楽歌部と研究科の作歌部が廃される。師範科に随意学科目加わり、漢文が廃される。各科目の成績は技術を重視して評定し、本科および研究科の生徒で学芸優秀な者には学費を補助する可能性があることとなる。聴講科が新設され、五月には寄宿舎規則が制定される。

項目別に内容を見ると、以下のような追加、削除、変更が明らかになる。

「第一章 第一條 總則」に「兼ネテ音楽教員ヲ養成スル處」が加わる。

「第二章 第二條 學科」が「本科及師範科甲種乙種トス」となり、「豫科研究科及聴講科ヲ置ク」が加わる。

「第三章 第三條 修業年限」において、本科の修業年限は前年まで三年であったのが「三箇年以上五箇年以内」となり、予科は一年であったのが「二箇年」となる。また、研究科作曲部の修業年限が「三箇年以内」となり、選科について「一學科目ニ付キ滿五箇年以内」という規定が加わる。

このほか、前年度と比較すると、項目の順序の入れ替え、複数項目の一本化など、構成面においてもかなりの変更がみとめられる。

以下、『東京音楽学校一覽 從明治四十二年至明治四十三年』の「第四 學則」全文を掲載する。

第四 學 則

第一章 總 則

第一條 本校ハ汎ク音樂ノ教授及攻究ヲナシ兼ネテ音樂教員ヲ養成スル處トス

第二章 學 科

第二條 本校ノ學科ハ本科及師範科<sup>甲種トス</sup>乙種トス

前項ノ外豫科研究科選科及聽講科ヲ置ク

第三章 修 業 年 限

第三條 本科ノ修業年限ハ三箇年以上五箇年以内師範科ノ修業年限ハ甲種師範科ニ在リテハ三箇年、乙種師範科ニ在リテハ一箇年トス

豫科ノ修業年限ハ二箇年トシ研究科ノ修業年限ハ作曲部ニ在リテハ三箇年以内其他ノ部ニ在リテハ二箇年以内選科ノ修業年限ハ一學科目ニ付キ滿五箇年以内トス

第四章 學 科 目 及 其 課 程

第四條 修身ノ外凡ヘテノ學科目ハ本科研究科ニ於テ之ヲ主科副科及兼科ニ別ツ

第五條 豫科ノ學科目ハ修身、唱歌、器樂<sup>ピアノ、オルガン又ハヴァイオリン</sup>音樂通論、國語、外國語<sup>英語又ハ體操トス</sup>獨逸語

第六條 本科ハ別チテ聲樂部、器樂部トス其學科目左ノ如シ

聲樂部ニ在リテハ修身、唱歌<sup>獨唱</sup>ピアノ、和聲論、樂式初歩、音樂史、國語、外國語<sup>英語又ハ體操トス</sup>獨逸語  
器樂部ニ在リテハ修身、器樂<sup>ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、ワイオリ</sup>ラ、ヴァイオリンセロ、コントラバス、フリオ

ユート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、トロンボン又ハトロンベツト、合唱、器樂合奏<sup>室樂及管絃樂</sup>和聲論、樂式初歩、音樂史、國語、外國語<sup>英語又ハ體操トス</sup>獨逸語

第七條 聲樂部ニ在リテハ唱歌ヲ主科トシ「ピアノ」和聲論、樂式初歩及音樂史ヲ副科トシ其ノ他ノ學科目ヲ兼科トス器樂部ニ在リテハ專修ノ器樂ヲ主科トシ合唱、器樂合奏、和聲論、樂式初歩及音樂史ヲ副科トシ其他ノ學科目ヲ兼科トス

第八條 豫科及本科ノ各學科目ノ每學年配當並其ノ每週教授時數左ノ如シ

| 學 科 目         | 學 年 |    |    | 學 科 目         | 學 年  |    |    |
|---------------|-----|----|----|---------------|------|----|----|
|               | 第一  | 第二 | 第三 |               | 第一   | 第二 | 第三 |
| 聲 樂 部 教 授 時 數 | 一   | 一  | 一  | 器 樂 部 教 授 時 數 | 一    | 一  | 一  |
| 修 身           | 一   | 一  | 一  | 第一            | 一    | 一  | 一  |
| 唱 歌           | 八   | 八  | 八  | 第二            | 三乃至五 | 同上 | 同上 |
| 器 樂           | 二   | 二  | 二  | 第三            | 同上   | 同上 | 同上 |
| 音 樂 通 論       | 一   |    |    | 第一            | 三乃至五 | 同上 | 同上 |
| 器 樂 合 奏       |     |    |    | 第二            | 同上   | 同上 | 同上 |
| 和 聲 論         |     | 二  | 二  | 第三            | 同上   | 同上 | 同上 |
| 樂 式 初 歩       |     |    | 二  | 第一            | 二    | 二  | 二  |
| 音 樂 史         | 二   | 二  |    | 第二            | 二    | 二  | 二  |
| 國 語           | 三   | 三  | 三  | 第三            | 二    | 二  | 二  |
| 外 國 語         | 三   | 三  | 三  | 第一            | 三    | 三  | 三  |
| 體 操           | 二   | 二  | 二  | 第二            | 三    | 三  | 三  |
|               | 二   | 二  | 二  | 第三            | 三    | 三  | 三  |

|       |     |     |     |    |    |    |     |     |
|-------|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|
| 計     | 一二二 | 一二三 | 一二三 | 二四 | 二五 | 二五 | 一二三 | 一二三 |
| 練習若干時 | 同上  | 同上  | 同上  | 同上 | 同上 | 同上 | 同上  | 同上  |

第九條 本科所定ノ學科目中其ノ配當年度内ニ修了セザリシモノニ就キテハ次年以後ニ於テ之ヲ修了セシム

第十條 本科ノ國語及外國語前同ハ本校所定ノ程度以上ノ學力アリト認メタル生徒若ハ修了ノ見込ナシト認メタル生徒ニハ其ノ全部又ハ一部ヲ課セザルコトヲ得

第十一條 豫科ノ器樂ハ第一學年ニ於テハ「ピアノ」ヲ課シ第二學年ニ至リ生徒將來ノ志望ニ依リ「ピアノ」「オルガン」又ハ「ヴァイオリン」ヲ課ス

第十二條 第六條ノ學科目ノ外隨意學科目トシテ美學音響論教育學及音樂教授法ヲ授ク

第十三條 研究科ヲ別チテ聲樂部、器樂部及作曲部トス其ノ學科目左ノ如シ

聲樂部ニ在リテハ唱歌獨唱ピアノノ外國語英語、獨逸語、又ハ伊太利語内外文學、美學トス

器樂部ニ在リテハ器樂ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、ウイオラ、ウイエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、トロンボン、又ハトロンベツト

器樂合奏室樂及管絃樂外國語英語又ハ獨逸語美學、音響論トス

作曲部ニ在リテハ音樂理論ピアノ又ハ合唱、外國語獨逸語、英語又ハ英語内外文學、美學、音響論トス

第十四條 研究科ノ聲樂部ニ在リテハ唱歌前同ヲ主科トシ「ピアノ」ヲ副科トシ其ノ他ヲ兼科トス

器樂部ニ在リテハ器樂ヲ主科トシ器樂合奏室樂及管絃樂ヲ副科トシ其ノ他ヲ兼科トシ作曲部ニ在リテハ音樂理論ヲ主科トシ「ピアノ」又ハ合唱ヲ副科トシ其ノ他ヲ兼科トス

第十五條 研究科ノ各學科目ノ每學年配當並其ノ每週教授時數ハ其ノ都度之ヲ定ム

第十六條 研究科ノ各部ノ兼科ハ學校長ノ意見ニ依リ之ヲ課セザルコトヲ得

第十七條 第六條第十三條ノ規定ニ拘ハラズ當分ノ內學校長ニ於テ獎勵ヲ要スト認ムル器樂ノ一ヲ志望ノ生徒ヲシテ併修セシムルコトヲ得又本科及研究科ノ器樂部ニ在リテハ生徒ノ志望ニ依リ專修器樂ノ外他ノ器樂ノ一ヲ併修セシムルコトヲ得

前項ノ併修器樂ハ之ヲ副科中ノ一學科目ト視做ス

第十八條 師範科ヲ別チテ甲種師範科及乙種師範科トス其學科目左ノ如シ

甲種師範科ニ在リテハ修身、唱歌、器樂オルガン又ハピアノ音樂通論、和聲論、音樂史、教育學及音樂教授法、國語、英語、體操及遊戲トス

但シ國語並英語ハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシメ其ノ他ヲ隨意科目トス

前項ノ外隨意科目トシテ「ヴァイオリン」、美學及音響論ヲ授ク乙種師範科ニ在リテハ修身、唱歌、オルガン、音樂通論、唱歌教授法、國語、體操及遊戲トス

第十九條 甲種及乙種師範科ノ各學科目ノ每學年配當並每週教授時數左ノ如シ

| 科目名       | 甲種師範科   |         |         |         | 乙種師範科 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|-------|
|           | 第一年教授時數 | 第二年教授時數 | 第三年教授時數 | 第一年教授時數 |       |
| 學科目       | 第一年教授時數 | 第二年教授時數 | 第三年教授時數 | 第一年教授時數 |       |
| 修身        | 一       | 一       | 一       | 一       |       |
| 唱歌        | 八       | 八       | 八       | 一〇      |       |
| オルガン又ハピアノ | 三       | 二       | 二       | 三       |       |
| 音樂通論      | 二       | 一       | 二       | 二       |       |
| 和聲論       |         | 二       | 二       |         |       |
| 音樂史       | 二       | 二       |         |         |       |
| 教育學       | 二       | 二       |         |         |       |
| 音樂教授法     |         |         | 一       | 第三學期一   |       |
| 國語        | 三乃至六    | 同上      | 同上      | 同上      |       |
| 英語        | 三乃至六    | 同上      | 同上      |         |       |
| 體操及遊戲     | 二       | 二       | 二       | 二       |       |
| 計         | 三三二     | 三三二     | 二八      | 二五      |       |
| 練習        | 若干時     | 同上      | 同上      | 同上      |       |

第二十條 選科ノ學科目ハ本科ノ主科ニ屬スルモノ及箏ニ限ル

但シ同時ニ三學科目以上ヲ併修スルコトヲ許サス

第廿一條 聽講科ノ學科目ハ本科研究科ノ主科及副科並音樂教授法トス

第廿二條 選科ノ每週教授時數ハ一學科目ニ付三時間以下トス

第廿三條 本校規定ノ學科目ノ外音樂ニ關係アル學術技藝ニ付キ課

外教授ヲ爲ス其種類及時數ハ每學年ノ始ニ於テ學校長之ヲ定ム

#### 第五章 學年、學期、休業

第廿四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第廿五條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ九月十日ニ至リ第二學期ハ九月十一日ヨリ翌年一月七日ニ至リ第三學期ハ一月八日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第廿六條 春期休業ハ四月一日ヨリ同月十日ニ至リ夏期休業ハ七月十一日ヨリ九月十日ニ至リ冬期休業ハ十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第廿七條 祝日、大祭日、日曜日及本校設立紀念日(十月四日)ハ休業トス

#### 第六章 入學、休學、退學

第廿八條 入學ノ期ハ毎年一回ニシテ學年ノ始メトス

但シ臨時入學ヲ許スコトアルベシ

第廿九條 本校ニ入學セントスル者ハ第一號及第二號書式ニ據リ入學願書ニ履歷書及戸籍謄本ヲ添ヘ差出スベシ

但シ選科ニ入學セントスル者ハ戸籍謄本ヲ要セズ

第三十條 豫科ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ品行善良ニシテ左ニ掲グル學科目ノ試験ニ合格シタル者タルベシ

但シ中學校第二年級ヲ修了シタル者若ハ之ト同等以上ノ學力アリト認ムル者ハ第一乃至第五高等女學校第二年級ヲ修了シタル者若ハ之ト同等以上ノ學力アリト認ムル者ハ第一乃至第四ノ試験ヲ要セス

入學試驗學科目

一 國語 中學校高等女學校  
第二級修了ノ程度

二 日本歴史 同右

三 日本地理 同右

四 算術 同右

五 英語 同右

六 普通樂譜 大要

七 唱歌 文部省發行  
小學唱歌集ノ程度

但シ必要ノ場合ニハ器樂ニ就キ併セテ試験ヲ行フ

第三十一條 本科ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ豫科卒業ノ者若ハ試験ニ

ヨリ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認メタル者トス

但シ他ノ學校ニ於テ修メタル學科目ニシテ本校ニ於テ修ムルモ

ノト同等以上ト認ムルトキハ其ノ科目ニ限り試験ヲ須キサルコ

トアルヘシ

第三十二條 研究科ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ本科卒業生中學藝優等

ニシテ尙將來進歩ノ見込アルモノニ限ル

但シ本科卒業生ニアラザルモ試験ニ依リ之ト同等以上ノ資格ア

リト認ムル者ニハ研究科ニ屬スル學科目ノ學習ヲ許可スルコト

アルベシ

第三十三條 甲種師範科ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ品行善良年齡滿十

六年以上ノ者ニシテ師範學校中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高

等女學校ヲ卒業シ地方長官ノ薦學ヲ受タル者ニ就キ左ノ入學試験

學科目第一ノ試験ヲ行ヒテ之ヲ定ム

但シ地方長官ノ薦學ヲ受ケザル者ト雖モ前記ノ資格ヲ有スル者

ハ之ニ準ス此ノ外尙ホ前記ノ資格ヲ有スル者ト同等以上ノ學力

アル者ハ入學試験學科目第一乃至第六ノ試験ヲ行ヒテ入學ヲ許

可スルコトアルヘシ

入學試験學科目

一 唱歌

二 國語

三 數學

四 理科

五 地理

六 歴史

但シ右試験ノ程度ハ師範學校中學校又ハ修業年限四箇年ノ高等

女學校ノ卒業ニ必要ナル程度ニ於テ之ヲ定ム

第三十四條 乙種師範科ニ入ルヲ得ヘキ者ハ品行善良ニシテ高等小

學校ヲ卒業シ左ノ入學試験學科目第一ノ試験ニ合格シタル者又ハ

第一乃至第五ノ學科目ニ就キ試験ノ上之ト同等以上ノ學力ヲ有ス

ル者タルベシ

入學試験學科目

一 唱歌 小學唱歌集  
初編ノ程度

二 國語

三 日本歴史

四 地理

五 算術

第三十五條 選科ニ入學ヲ許可スベキ者ハ所選ノ學科目ヲ學習スル

ニ堪フト認ムル者タルヘシ

但シ必要ノ場合ニハ音楽上ノ能力ヲ試験シテ其許否ヲ決スルコトアルベシ

第三十六條 聽講科ニ入學ヲ許可スベキ者ハ相當音楽上ノ素養アリ

ト認ムル者タルベシ

第三十七條 本校ノ入學試験ヲ受ケントスル者ニハ體格検査明治三十三年

文部省令第四號學生生徒身體検査規程ニ依ルヲ行ヒ其ノ許否ヲ決ス又師範科ノ入學者ニ就

キテハ口頭試問ヲ行ヒテ其ノ教員タルノ適否ヲ定ムルコトアルヘシ

但シ選科及聽講科ノ入學者ハ此限ニアラス

第三十八條 甲種師範科ノ入學試験ニ合格シタル者ハ三箇月以内假

入學ヲ許シ資性品行及學業成績ヲ考察シ適當ト認ムル者ニ限り本

入學ヲ許可スルモノトス

第三十九條 生徒疾病其他正當ノ事由アリテ二箇月以上修學スルコ

ト能ハザルトキハ豫メ期間ヲ定メテ休學スルコトヲ得

第四十條 生徒疾病其他ノ事故ニ因リ缺課シタルトキハ其ノ事由ヲ

記シ保證人ヨリ三日以内ニ届出ツベク疾病七日以上ニ及ブトキハ

診斷書ヲ添付スヘシ

第四十一條 生徒疾病ニ罹リ又ハ止ムヲ得ザル事故アリテ修學スル

コト能ハザル者退學セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連

署ニテ願出ツベシ

第四十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ除名ス

一 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シ又ハ同期間出席

僅ニ數回ニ止マル者

二 屢遅刻缺席シ出席常ナラザル者

三 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナキ者

四 授業料ノ怠納三十日ニ及ブ者

前項ニ指定シタル場合ノ外除名ニ關シテ臨機ノ處分ヲナスコトアルヘシ

### 第七章 誓約及保證人

第四十三條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ第三號若クハ第四號書式ノ誓

約書ヲ差出シ且宣誓ヲ爲スヘシ

但シ選科及聽講科ニ入學スル者ハ宣誓ヲ要セズ

第四十四條 保證人ハ二人トス一人ハ父母後見人又ハ親戚ニシテ他

ノ一人ハ東京市内若ハ其附近ニ住居シ年齢資産共ニ保證人ノ責ニ

堪フル者タルベシ

但シ保證人タル父母、後見人又ハ親戚ニシテ他ノ一人ノ保證人

タルベキ者ト同一ノ資格ヲ有スルトキハ他ノ一人ノ保證人ヲ要

セス

第四十五條 保證人ハ其保證スル生徒ノ本校ニ對スル一切ノ債務ヲ

保證シ且該生徒ノ操行修學ヲ監督スルモノトス

第四十六條 保證人死亡シ又ハ保證ノ責ニ堪ヘザル事由發生シタル

トキハ更ニ保證人ヲ定メ誓約書ヲ改メ差出スベシ

第一號書式 (用紙美濃)

### 入學願

私儀御校某科(某年級部)へ入學志願ニ付試験ノ上(無試験ニ

テ) 御許可被成下度別紙履歷書相添へ此段相願候也

本籍地何々

現住所何々  
 族籍、何某男女兄弟姉妹又ハ戸主  
 本人 何 某 ㊟  
 何年何月何日生

年月日

東京音楽學校長何某殿

第二號書式 (用紙美濃)

履 歴 書

族 籍 何 某

何年何月何日生

出生地何々  
 父兄職業何々  
 何年何月何日何學校ニ入り何年何月何日卒業(卒業證書寫別紙ノ通)  
 何年何月何日何某ニ就キ何々修業何年何月何日何々ノ事故ニ因リ退學又ハ廢學  
 何年何月何日何業ニ從事  
 賞罰何々  
 右ノ通りニ有之候也

右 何 某 ㊟

年月日

第三號書式 (用紙美濃)

三錢印紙 誓 約 書

私儀今般御校ニ入學御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク相守リ専心勉強可仕此段誓約候也

本籍地何々  
 現住所何々  
 族籍何某男女兄弟姉妹又ハ戸主  
 本人 何 某 ㊟  
 何年何月何日生

前書何某入學ノ御許可ヲ得候ニ付テハ御校御規定ノ保證人ノ責任ハ拙者(又ハ拙者共)ニ於テ引受ケ候尙本人ヲシテ前記ノ誓約ヲ嚴守セシメ可申因リテ此段保證候也

本籍地何々  
 現住所何々  
 何某父母後見人  
 又ハ親族關係 職業  
 保證人 何 某 ㊟  
 何年何月何日生

本籍地何々  
 現住所東京市(又ハ府)何々、職業  
 保證人 何 某 ㊟  
 何年何月何日生

東京音楽學校長何某殿

年月日

第四號書式 (用紙美濃)

參錢  
印紙

誓約書

私儀今般御校甲種師範科官費生トシテ入學御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク相守リ専心勉學可仕又卒業ノ後ハ明治三十五年文部省令第六號東京音樂學校甲種師範科官費卒業生服務規則ヲ遵奉可致此段誓約候也

年月日

何年何月何日生

何年何月何日生

本籍地何々  
現住所何々  
族籍何某男女兄弟姉妹又ハ戸主

前書何某人學ノ御許可ヲ得候ニ付テハ御校御規定ノ保證人ノ責任ハ拙者(又ハ拙者共)ニ於テ引受候尙本人ヲシテ前記ノ誓約ヲ嚴守セシメ可申因リテ此段保證候也

本籍地何々  
現住所何々

何某父母後見人又ハ親族關係、職業

保證人 何 某 ㊦

何年何月何日生

本籍地何々

現住所東京市(又ハ府)何々、職業

保證人 何 某 ㊦

何年何月何日生

東京音樂學校長何某殿

前書保證人何某ハ本市(町區)ニ住居ノ者ニ相違無之候也

年月日 何(道廳)何郡(市區)長何 某 ㊦

前書保證人何某ハ本區(町村)ニ住居シ公民權ヲ有スル者ニ相違無之候也

年月日 東京市(府)何區(何郡何村)長 何 某 ㊦

何 某 ㊦

備考一名ノ保證人ハ父母後見人又ハ親族ナキトキハ相當ノ資格アル者ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八章 試業並進級修了及卒業

第四十七條 試業ハ每學年末ニ之ヲ行フ

但シ學年ノ半途ニ完了スル學科目ハ其當時試業ヲ行フ

選科及研究科ノ試業ハ學科目修了ノ際之ヲ行フ

第四十八條 本科卒業試業ハ在學三學年以上研究科及選科修了試業

ハ在學二學年以上ノ者ニアラザレハ之ヲ行ハザルヲ以テ常例トス

第四十九條 試業ノ成績ハ點數ヲ以テ之ヲ評定ス

本科及研究科ノ主科ハ三百、副科ハ二百兼科ハ一百ヲ以テ滿點トシ

シ師範科ノ唱歌ハ二百其ノ他ノ學科目ハ各一百ヲ以テ滿點トシ選

科ノ各學科ハ各一百ヲ以テ滿點トス

第五十條 試驗ノ成績ハ本科及研究科ノ主科ニ於テハ百八十點以上

副科ニ於テハ百點以上兼科ニ於テハ四十點以上ヲ以テ合格トシ師

範科ノ唱歌ニ於テハ百二十點以上其ノ他ノ學科目ニ於テハ四十點

以上ヲ以テ合格トス

選科修了試驗ノ成績ハ一學科目各六十點以上ヲ以テ合格トス



第五十一條 音樂技術ニ關スル試業ハ特ニ命シタル教官列席ノ上之ヲ行ヒ擔任教員ト合議シ其ノ評點ヲ決定ス

但シ本科卒業及研究科修了ノ場合ニハ特ニ試験委員ヲ設ケテ試業セシムルモノトス

第五十二條 修了又ハ卒業試業ニ合格シタル者ニハ修了證書又ハ卒業證書ヲ授與ス

第五十三條 第十六條ニ依リ在學三學年以上ニシテ主科副科ノミヲ修了シタル者ニハ其科ニ付修了證書ヲ授與ス

聽講生及半途退學者ニハ本人ノ願ニ依リ在學ノ證明ヲ爲コトアルベシ

第五十四條 試業ニ缺席シ追試業ヲ受ケントスル者アルトキハ缺席ノ事由已ムヲ得ザルモノト認ムル場合ニ限り之ヲ行フ

#### 第九章 受験料、入學料及授業料

第五十五條 新ニ本校ニ入學セントスル者ハ聽講科ヲ除クノ外豫科

本科及師範科ニ在リテハ受験料トシテ入學願書ニ金壹圓ヲ添ヘ納付スベシ又選科ニ在リテハ入學料トシテ入學許可ノ當日金壹圓ヲ納付スヘシ

既納ノ受験料ハ入學セザル場合ニモ之ヲ返付セズ

但シ地方長官ノ薦擧ニ係ル甲種師範科入學志願者ハ受験料ヲ要セス

第五十六條 授業料ノ年額左ノ如シ

- 一 本科 金貳拾圓
- 一 豫科 金拾五圓
- 一 選科 每學科目 金拾五圓

第五十七條 選科ニ在リテ二學科目以上ヲ修ムル場合ニハ一學科目

ノ授業料ヲ全額トシ他學科目ニ付キテハ每學科目金五圓ヲ減額ス

第五十八條 聽講科ノ授業料ハ一學科目ニ付年額金拾圓以上貳拾圓

以內ノ範圍ニ於テ學校長之ヲ定ム

第五十九條 師範科及研究科生徒ヨリハ授業料ヲ徴收セス

第六十條 特別生ニハ其特別生タル間又許可ヲ得テ休學スル者ニハ次期以後休學中授業料ヲ免除ス

第六十一條 他官廳ノ委託學生ニハ文部大臣ノ許可ヲ得テ特ニ其ノ授業料ヲ免除スルコトアルベシ

第六十二條 授業料ハ左ノ三期ニ區分シ第一期ハ四月ヨリ六月迄第二期ハ九月ヨリ十二月迄第三期ハ一月ヨリ三月迄トシ其納付期日ハ其ノ期ノ初月二十日ヨリ二十八日迄トス

第一期分 年額ノ十分ノ三  
第二期分 同 十分ノ四  
第三期分 同 十分ノ三

既納ノ授業料ハ本人退學ノ場合ト雖モ之ヲ返付セズ

第六十三條 授業料納付期日後入學シ又ハ選科ノ學科目ヲ増加シタル者ハ其月ヨリ起算シ月割ヲ以テ其ノ期ノ納額又ハ増加額ヲ即日納付セシム

#### 第十章 學費及獎學金

第六十四條 本科及研究科生徒中特ニ品行善良學藝優秀ニシテ學費ノ支辨ニ困難ナル者ニハ其ノ學費ヲ補助スルコトアルベシ

第六十五條 研究科ノ生徒ニハ研究ニ要スル實費ノ全部又ハ幾分ヲ支給シ又ハ毎月一定ノ學費ヲ支給スルコトアルベシ

第六十六條 本科及研究科生徒ニシテ本校ニ於テ獎勵ヲ要スト認ムル學科目ヲ修ムル者ニハ毎月一定ノ學費ヲ支給スルコトアルベシ前項ニ依リ學費ノ支給ヲ受クル本科生徒ハ卒業ノ後研究科ニ入ルヲ要ス

第六十七條 前三條ニ依リ支給スル實費及學費ノ金額竝之ヲ支給スベキ生徒ハ學校長之ヲ定ム

第六十八條 甲種師範科官費生ニハ毎月金五圓乃至八圓ヲ支給ス但シ入學ノ月ハ日割ヲ以テ支給シ卒業及死亡ノ月ハ全額ヲ支給シ退學ノ月ハ支給セス

第六十九條 左ノ各項ノ一ニ該當スル場合ニハ學費ノ支給ヲ停止ス  
一 私ノ事故ニ因リ二週間以上引續キ缺課シタルトキハ其翌日ヨリ缺課繼續中

一 疾病傷痍又ハ已ムヲ得サル事故ニ因リ六十日以上缺課シタルトキハ其ノ翌日ヨリ缺課繼續中

一 休學又ハ停學處分中

第七十條 學費ノ支給ヲ受クル者ニシテ半途退學スル者又ハ退學ヲ命セラレタル者ニハ既ニ受ケタル學費ヲ償還セシム但シ疾病傷痍又ハ酌量スヘキ事情アルトキハ償還スヘキ學費ノ全部又ハ幾部ヲ免除スルコトアルベシ

第七十一條 獎學金ハ寄附者ノ指定ニ依リ又其ノ指定ナキモノハ學校長ノ意見ニ依リ支給又ハ貸付ス

第七十二條 前條ニ依リ貸付スル獎學金ハ卒業後滿一ケ年ヲ經過シタル月ヨリ貸付ノ月數ニ相當スル期間内ニ於テ月賦返納セシム

但シ期限ニ先チ一時ニ全額又ハ幾分ヲ返納スルコトヲ得

第七十三條 寄附者ノ指定ナキ獎學金ノ支給又ハ貸付ヲ受クル者ニハ第六十八條但書第六十九條乃至第七十條ヲ準用ス

第七十四條 本科及研究科ノ生徒ニシテ學費ノ支給又ハ貸付ヲ受ケント欲スル者ハ第四號書式ニ準シ誓約書ヲ差出スベシ  
第十一章 特待生及生徒心得

第七十五條 本科生徒ニシテ技藝優等品行善良ナル者ヲ以テ特待生トナス

第七十六條 特待生ハ每學年ノ始ニ於テ學校長之ヲ定ム

第七十七條 本校ノ生徒ハ本校ノ公開ノ音樂演奏會及音樂演習會ニ出席演奏スルノ義務ヲ有ス

第七十八條 本校ノ生徒ハ研究科生徒ヲ除キ學校長ノ許可ヲ得ルニアラサレバ私ニ教授ヲナシ又ハ本校以外ノ公開ノ演奏會ニ出席演奏スルコトヲ得ス

第七十九條 生徒心得ニ關スル細則ハ學校長別ニ之ヲ定ム

### 第十二章 懲戒

第八十條 學校長ハ非違ノ行爲アル生徒ヲ懲戒スルコトヲ得

第八十一條 懲戒ヲ分チテ譴責停學及放校ノ三種トス

### 第十三章 音樂演奏會及音樂演習會

第八十二條 本校ハ時々音樂演奏會及音樂演習會ヲ開ク

第八十三條 音樂演奏會ハ公開シ音樂演習會ハ公開セザルヲ以テ常例トス

第八十四條 音樂演奏會及音樂演習會ニ關スル細則ハ學校長別ニ之ヲ定ム

附 則

第八十五條 本規則ハ明治四十二年四月一日ヨリ施行ス

(『東京音樂學校一覽 從明治四十二年至明治四十三年』三二―五八頁)

參考資料として、『明治四十二年度東京音樂學校學事年報』より、『概況』『規程』『設備』『生徒』の項を全文掲載する。『設備』については、第六節「敷地建物の変遷」と照合されたい。

概 況

本年度ニ於ケル概況ヲ述フレバ四十二年六月十二日十三日同十一月廿七日廿八日音樂演奏會ヲ開催シ同年十二月十八日第三回邦樂演奏會ヲ開催シ四十二年三月廿五日生徒卒業證書授與式ヲ舉行シ併テ演奏會ヲ開催セリ

邦樂調査掛ニ於テハ本校規則改正ノ結果本科器樂ノ一科目タリシ箏ヲ廢セラレタルヲ以テ之ヲ調査事項ノ一ニ加ヘタリ各樂曲ノ調査ニ就テハ其ノ曲節ヲ記譜シ樂曲構成ノ方法等ヲ考查シ或ハ詞章ノ解釋ヲ試ミ其ノ劇的關係アルモノハ有ユル方面ノ關係ヲ調査シ又邦樂年表ヲ作製シツ、アリ

規 程

明治四十二年四月廿八日規則ヲ改正シ本科學年制ヲ廢シテ修業年限ヲ三箇年以上五箇年以内トシ本科研究科ノ學科目ヲ分チテ主、副、兼ノ三種ニ區分シ本科ノ樂歌部及研究科ノ作歌部ヲ廢シ豫科ノ修業年限ヲ二箇年ニ延長シ師範科ニ隨意科目ヲ加ヘ漢文ヲ廢シ各學

科目ノ成績ハ技術ニ重キヲ置キテ評定シ本科及研究科ノ生徒ニシテ學藝優秀ナル者ニ學費ヲ補助シ得ルコト、ナシ又聽講科ヲ新設ス、五月廿一日寄宿舎規則ヲ制定ス同年八月廿八日事務幹部規程ハ必要ナキヲ以テ之ヲ廢シ事務分課規程中改正ヲ爲ス、十二月二日豫科修業年限ハ二箇年ノ規定ナルモ生徒ハ規則改正廢令前ニ入學シタルヲ以テ特ニ一箇年トシ又聽講科ハ入學者小數ナルヲ以テ獎勵ノ爲メ當分授業料ヲ徴收セサルコトトス四十二年三月廿七日本科卒業證書及選科修了證書々式ヲ改正シ研究科修了證書々式ヲ定ム

設 備

本校校舎ハ明治二十三年二月ヲ以テ建設セラレ規模狹小設備不全ナリ本年度ニ於テ教室ノ増築アリタルモ尙不足ヲ免レス奏樂堂亦狹隘ニシテ管絃樂及コーラス等遺憾ナク演奏ヲ爲スコト能ハス四十二年四月官費女生徒訓育及取締ノ必要上本郷區根津西須賀町二番地ニ七拾一坪七合五勺ノ家屋ヲ借入レ之ヲ假寄宿舎ニ宛テ僅ニ二十有餘人ヲ收容シアルモ狹隘且構造不完全ナルヲ以テ四十四年度ニ於テハ少クトモ五十人ヲ收容スルニ足ルベキ建造物ヲ本校敷地内ニ新築スルト奏樂堂ヲ改築スルトハ當面ノ急務ナリ

圖書及樂器樂譜等年々購入シツ、アリト雖モ是亦不足ヲ免レス就中「ピアノ」ハ緊要ノ樂器ニシテ其用途甚タ廣ク毎日四時間乃至七時間宛教授用及練習用トシテ使用スルヲ以テ使用ニ堪ヘサルモノ多數ヲ生スルモ經費ニ制限セラレ僅ニ數臺ヲ購入スルニ過キス依リテ今後ハ毎年一千圓位ノモノ拾臺内外宛ヲ購シ音律不調ノモノハ順次

之ヲ廢棄シ新調ノ樂器ヲ以テ之ガ補充ヲ爲スト同時ニ増加ノ方法ヲ講スルノ必要アリ且又「パイプオルガン」ノ備付ナキ爲メ去三十九年度中斯技ヲ研究シ歸朝シタル専門家アルモ演奏及授業ヲ爲スコト能ハス依テ來四十四年度ニ於テハ之ガ備付ヲ要ス

分教場ハ神田區一ツ橋通町ニ在リ校舍古ク狹隘ナルヲ以テ將來ハ別ニ適當ノ敷地ヲ選定シ新築スベキ必要ヲ認ム

生徒

生徒ノ操行ハ尋常ナリ但本年度内無届缺課并ニ授業料滞納ノ廉ヲ以テ除名シタル者本科二一名選科二十五四名アリタリ

生徒ノ學力ハ概ネ佳良ニシテ著シキ優劣ナキモ卒業ノ際比較的成績優良ニシテ指定寄附ニ係ル賞品ヲ授與シタル者本科二五名甲種師範科二三名乙種師範科二一名アリ又授業補助ヲ命ジタル者研究科二八名アリ而シテ病氣ニ罹リ學年試業ヲ受ケザル爲メ原級ニ止メタル者甲種師範科二一名アリ尙學業不進歩ニシテ成業ノ見込ナキヲ以テ諭旨退學ヲ命ジタル者豫科二二名乙種師範科二三名アリタリ<sup>(1)</sup>

試験ニ合格シ入學ヲ許可シタル者ハ豫科二十四名甲種師範科三十三名、乙種師範科十八名無試験入學ヲ許可シタル者ハ研究科十一名聽講科十名選科二百十名アリ入學試験ニ合格シタル者ノ修業學校別并ニ平均年齢左ノ如シ

入學者入學前修業學校別

|       |      |    |    |       |       |   |             |      |    |    |       |       |   |
|-------|------|----|----|-------|-------|---|-------------|------|----|----|-------|-------|---|
| 中學校卒業 | 修業學校 | 學科 | 豫科 | 甲種師範科 | 乙種師範科 | 計 | 中學校第二學年以上修了 | 修業學校 | 學科 | 豫科 | 甲種師範科 | 乙種師範科 | 計 |
|       | 二    | 四  | 一  | 七     | 六     | 一 |             | 七    |    |    |       |       |   |

|               |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 縣立工業學校半途退學    | 一 | 一 | 一 | 一 | 七 | 一 | 一 |
| 高等女學校第二學年以上修了 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 師範學校豫備科修了     | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 高等小學校卒業       | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 私立女學校半途退學     | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 合計            | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

備考 表中ノ朱書(○)で囲んで示したハ女子ナリ

入學者年齢表

| 學科    | 區分 |   | 最大      | 最小     | 平均      |
|-------|----|---|---------|--------|---------|
|       | 男  | 女 |         |        |         |
| 豫科    | 男  | 女 | 二十二年八月  | 十六年七月  | 十九年七月   |
|       | 女  | 男 | 十九年十月   | 十五年一月  | 十七年九月   |
| 甲種師範科 | 男  | 女 | 二十三年八月  | 十七年十月  | 二十五年十一月 |
|       | 女  | 男 | 二十二年一月  | 十六年十月  | 十九年     |
| 乙種師範科 | 男  | 女 | 二十四年十一月 | 十九年七月  | 二十二年五月  |
|       | 女  | 男 | 二十八年八月  | 十六年十一月 | 二十年二月   |

生徒ノ健康ニ關シテハ別ニ申報スベキ著キ事項ナキモ本年度内二病氣ノ爲メ休學セシ者三名、死亡セシ者四名アリタリ (手書き)

(明治四十二年東京音樂學校學事年報)

(1) 「明治四十二年東京音樂學校年報乙號表」の備考によれば「退學者退學ノ事由ヲ細別セハ病氣ノ者十七名家事係累ノ者百五十五名徴兵ノ者一名外國留學ノ者一名學業不進ノ者五名ナリケリ」となっている。

明治四十三年～四十四年

四十三年一月生徒ノ卒業證書式ヲ改正ス二月敷地内ニ新築ノ建家  
七十三坪ヲ交付セラル同月女生徒ノ服制ヲ定ム三月甲種師範科生徒  
ノ學費支給細則ヲ規定ス同月文部省令第三號ヲ以テ甲種師範科卒業  
生服務規則ヲ改正セラル五月文部省令第十二號ヲ以テ本校規程ヲ改  
正シ師範科ノ學科目中ニヴァイオリンヲ加ヘラル

〔東京音樂學校一覽 從明治四十三年至明治四十四年〕一二頁

これにより「第四 學則」の「第四章 學科目及其課程」中、第十八  
條の前半部分が次のように変更された。後半は前年と同じ。

第十八條 師範科ヲ別チテ甲種師範科及乙種師範科トス其學科目左  
ノ如シ

甲種師範科ニ在リテハ修身、唱歌、器樂、オルガン、ピアノ音樂通  
論、和聲論、音樂史、教育學及音樂教授法、國語、英語、體操及  
遊戲トス

〔前掲書 三九頁〕

次に『明治四十三年度東京音樂學校學事年報』（四十四年五月二十六  
日）案中、「規程」の項を掲載する。

規程

明治四十四年一月十日規則ヲ改正シテ豫科ノ修業年限ヲ一箇年以  
上二箇年以内ニ改メ甲種師範科ノ必須科目中ニ「ヴァイオリン」ヲ

加ヘ第四十六條第四號誓約書々式ハ文部省令第三號ヲ以テ甲種師範  
科卒業生ノ服務規則改正セラレタルヲ以テ其書式中ニ「甲種師範科  
官費生」トアルヲ「甲種師範科」ニ改メ豫科ノ試業評點ヲ明瞭ナラ  
シメンガ爲メ唱歌及器樂ヲ百八十點以上三百點迄ト改ム三月十日本  
科及ヒ豫科ノ授業料ヲ孰レモ一ヶ年ニ付五圓宛ヲ増額シテ本科ヲ貳  
拾五圓豫科ヲ貳拾圓ニ改メ本年三月以前ニ入學シタル者ハ舊規定  
ニ據ルコトトセリ

〔手書き〕

明治四十四年～四十五年

前掲の『明治四十三年度東京音樂學校學事年報』中に記述されている  
文部省令第二号は次のようなものである。

文部省令第三號（明治四十三年三月十日）

東京音樂學校甲種師範科卒業生服務規則

第一條 東京音樂學校甲種師範科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左  
ノ期間引續キ教育ニ關スル職務ニ従事スルノ義務ヲ有ス

- 一 甲種ノ學費支給ヲ受ケタル者ハ五箇年
- 二 乙種ノ學費支給ヲ受ケタル者ハ三箇年
- 三 學費ノ支給ヲ受ケサル者ハ二箇年

第二條 東京音樂學校甲種師範科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左  
ノ期間文部大臣ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務ヲ有ス

- 一 學費ノ支給ヲ受ケタル者ハ二箇年
- 二 學費ノ支給ヲ受ケザル者ハ一箇年

第三條 東京音樂學校甲種師範科卒業生ニシテ特別ノ事情ニ依リ第

一條ノ義務ヲ履行スルコト能ハザル者ハ其ノ理由ヲ具シ東京音樂學校長又ハ地方長官ヲ經テ義務ノ猶豫又ハ免除ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ出願シタル者アルトキハ東京音樂學校長又ハ地方長官ハ事實ヲ審査シ意見ヲ具シ願書ヲ進達スベシ

第四條 東京音樂學校甲種師範科卒業生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ文部大臣ノ指揮ニ依リ學資ノ支給ヲ受ケタル者ニ在リテハ其在學中ニ於ケル授業費及學資、學資ノ支給ヲ受ケザル者ニ在リテハ授業費ヲ償還セシム

但シ情狀ニ依リ其全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルベシ

一 第一條ノ義務ヲ履行セサル者

二 服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者

前項授業費ノ金額ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムベシ

第五條 東京音樂學校卒業生ニシテ服務年限中研究科等ニ入學セムトスル者アルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルベシ

第六條 東京音樂學校甲種師範科卒業生ニシテ第三條ニ依リ其ノ義務ヲ猶豫セラレタルトキ又ハ前條ニ依リ研究科等ニ入學シタルトキハ其ノ猶豫又ハ在學ノ期間ハ服務年限ニ算入セス

#### 附則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

本令施行以前ニ入學シタル者ノ服務年限ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

(東京音樂學校一覽 從明治四十四年至明治四十五年) 三〇(三二頁)

明治四十四年一月文部省令第一號ヲ以テ甲種師範科學科科目中必修科目ニアラサル他ノ一器樂ヲ隨意科目トシ豫科ノ修業年限ヲ一箇年乃至二箇年ト改正セラレ本校規則中第三條第十八條第四十九條第五十條第五十三條第五十九條第六十八條第六十九條第七十條ヲ改正ス

三月寄宿舎規則ヲ改正シテ本校敷地内ニ寄宿舎ヲ新築シ本郷區西須賀町ノ假寄宿舎ヲ閉舍ス

(前掲書 一二頁「沿革略」)

右に記された改正条項を次に掲げる。

第三條 本科ノ修業年限ハ三箇年以上五箇年以内師範科ノ修業年限

ハ甲種師範科ニ在リテハ三箇年、乙種師範科ニ在リテハ一箇年トス

豫科ノ修業年限ハ一箇年以上二箇年以内トシ研究科ノ修業年限ハ作曲部ニ在リテハ三箇年以内其他ノ部ニ在リテハ二箇年以内選科ノ修業年限ハ一學科目ニ付キ滿五箇年以内トス

第十八條 師範科ヲ別チテ甲種師範科及乙種師範科トス其學科目左ノ如シ

甲種師範科ニ在リテハ修身、唱歌、器樂オルガン、ピアノ、音樂通論、和聲論、音樂史、教育學及音樂教授法、國語、英語、體操及遊戲トス

但シ器樂中オルガン、ピアノ及ヴァイオリンニ付キテハ其ノ中ノ一ヲ選修セシメ其ノ他ノ一ヲ隨意科目トス國語及英語ニ付テモ亦同シ

前項ノ外隨意科目トシテ美學及音響論ヲ授ク

乙種師範科ニ在リテハ修身、唱歌、オルガン、音樂通論、唱歌教授法、國語、體操及遊戲トス

第四十九條 試業ノ成績ハ點數ヲ以テ之ヲ評定ス

本科及研究科ノ主科ハ三百、副科ハ二百兼科ハ一百ヲ以テ滿點トシ豫科ノ唱歌及器樂ハ三百師範科ノ唱歌ハ二百其ノ他ノ學科目ハ各一百ヲ以テ滿點トシ選科ノ各學科目ハ各一百ヲ以テ滿點トス

第五十條 試験ノ成績ハ本科及研究科ノ主科ニ於テハ八十點以上

副科ニ於テハ百點以上兼科ニ於テハ四十點以上ヲ以テ合格トシ豫科ノ唱歌及器樂ニ於テハ八十點以上師範科ノ唱歌ニ於テハ百二十點以上其ノ他ノ學科目ニ於テハ四十點以上ヲ以テ合格トス  
選科修了試験ノ成績ハ一學科目各六十點以上ヲ以テ合格トス

第五十三條 第十條後段及第十六條ニ依リ兼科ヲ缺キ主科副科ノミ

ヲ修了シタル者ニハ其科目ノ修了證書ヲ授與ス

第五十九條 師範科研究科生徒ヨリハ授業料ヲ徴收セズ

第六十八條 甲種師範科官費生ニハ學費トシテ月額金五圓乃至八圓ヲ支給ス

第六十九條 前各條ノ學費一箇月未滿ノトキハ日割ヲ以テ支給シ卒

業、終了、死亡ノ月ハ全額ヲ支給シ退學ノ月ハ全部支給セズ

第七十條 左ノ各項ノ一ニ該當スル場合ニハ學費ノ支給ヲ停止ス

一 私ノ事故ニ因リ二週間以上引續キ缺課シタルトキハ其翌日ヨリ缺課繼續中

一 疾病傷痍又ハ已ムヲ得ザル事故ニ因リ六十日以上缺課シタルトキハ其ノ翌日ヨリ缺課繼續中

一 休學又ハ停學處分中

(前掲書 三四〜五八頁)

また、前年度『學事年報』に見られる「第四十六條第四號誓約書々式」の改正は次のとおり。

第四號書式 (用紙美濃)

參錢  
印紙  
誓約書

私儀今般御校甲種師範科ニ入學御許可相成候ニ付キテハ御規則堅ク相守リ専心勉學可仕又卒業ノ後ハ明治四十三年文部省令第三號東京音樂學校甲種師範科卒業生服務規則ヲ遵奉可致此段誓約候也……(後略。以下変更なし)

(前掲書 五一頁)

『明治四十四年度東京音樂學校學事年報』の「規程」の項には次の一文のみ記載されており、これは次年度の規則に反映される。

明治四十五年一月八日入學受験料金壹圓ヲ貳圓ニ改ム (手書き)

入學金と授業料については、同じく『明治四十四年度東京音樂學校學事年報』乙款(明治四十五年六月二十八日起案、同二十九日決定)に、次のような記録がある。

乙 款

一 入學金授業料等

入學金ハ選科生ニ限り之ヲ徵收スルコト從來ト異ナル所ナシ授業料ハ豫科及本科ノ納額ヲ改正シ本年度入學生ヨリ之ヲ増徴シ又試験料、寄宿料納額ヲモ改正シテ增收ヲ圖リタルモ爲ニ納付人員又ハ滯納者ノ數ニ影響ナク好結果ヲ得タリ而シテ之ガ徵收方法、納否ノ狀況并ニ滯納者ニ對スル處分方等ハ凡テ從來ト異ナル所ナシ

(手書き)

(二) 大正年間

明治四十五年ノ大正元年ノ二年

前年度『學事年報』に記された受験料は、次のように改定され記載されている。

第九章 受験料、入學料及授業料

第五十五條 新ニ本校ニ入學セントスル者ハ研究科及聽講科ヲ除クノ外豫科本科及師範科ニ在リテハ受験料トシテ入學願書ニ金貳圓ヲ添ヘ納付スヘシ又選科ニ在リテハ入學料トシテ入學許可ノ當日金壹圓ヲ納付スヘシ

既納ノ受験料ハ入學セザル場合ニモ之ヲ返付セズ

但シ地方長官ノ薦學ニ係ル甲種師範科入學志願者ハ受験料ヲ要セス

(東京音樂學校一覽 從明治四十五年至大正二年 五五頁)

大正二年五月二十二日に起案され、同月二十六日に決定された『大正元年度東京音樂學校學事年報』の「規程」欄には次のように記載されている。

規程

大正元年八月三十日能樂囃子生徒養成規程ヲ定ム同年十一月二十七日規則ヲ改正シテ甲種師範科入學者資格中修業年限四ケ年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者トアリシヲ之ニ「本科」ノ二字ヲ加ヘテ本科ヲ卒業シタル者ト改メ從來府縣知事ノ薦學ヲ受ケ出願シタリシヲ改メテ當該學校長ノ薦學ヲ受クベキコト、ナシ又入學試験科目ニ普通樂譜大ヲ加ヘタリ、同二年二月十日樂語調査掛規程中一箇條ヲ追加シテ囑託員若干名ヲ置クコト、セリ

(手書き)

大正二年ノ三年

前年度の『學事年報』は、次年度の『東京音樂學校一覽』に以下のよう記載されている。

大正元年八月三十日能樂囃子生徒養成規程ヲ制定ス、十一月二十八日文部省令第三號ヲ以テ甲種師範科入學志願者ハ地方長官ノ薦學ヲ受クベキ規定ナリシヲ師範學校中學校及高等女學校長ノ薦學ヲ受クルコトニ改正セラル又學則ヲ改正シテ甲種師範科入學試験科目ニ普通樂譜大要ヲ加フ

同二年二月十日樂語調査掛規程中一箇條ヲ追加シテ囑託員若干名ヲ置クコトニ改正ス、六月二十八日學則第六十八條ニ但書ヲ加ヘ夏